

ながれやま 博物館だより

第7号（令和7年6月／年2回発行）

お知らせ

● 今年度の講座

詳細は広報ながれやま、博物館ホームページ等でご確認のうえ、お申込みください。

寺子屋講座

6 / 5	庚申塔が面白いー西栄寺と上貝塚ー
7 / 5	考古学入門ー考古学って何だろう？ー
10/11	考古学入門ー野々下貝塚を歩くー
10/18	赤城神社の社殿と夜神楽を楽しむ
10/19	赤城神社本殿内覧会
11 / 6	赤城山神楽寺光明院を探る
11/16	歴史歩きー利根運河・西深井地区ー
1 / 17	考古学入門ー貝塚について考えてみようー
2/7・14・21	古文書を読む(古文書講座)

子ども教室

6 / 14	茶道教室
7 / 5	考古学体験会(土器拓本・貝アクセサリ)
7 / 24	縄文時代の布・アングイン織を作ろう！
8 / 6	勾玉を作ろう！
12/14	昔の印刷機でオリジナルカードを作ろう！
12/20	木の実工作ー市内で拾える木の実を使ってー
3 / 8	煎茶教室

※日程・内容は変更になる場合があります。



昨年度実施風景

(左：考古学入門ー考古学って何だろう？ー／右：考古学入門ー野々下貝塚を歩くー)

● 休館情報のご案内(7月後半～12月末予定)

館内改修工事のため休館します。休館期間は7月後半～12月末を予定しています。

6か月にわたり展示室内の床や壁の改修、トイレのバリアフリー化等を実施します。皆さまにはご迷惑をお掛けして申し訳ございません。工事の終わる来年には、より安心・安全で快適な環境の博物館として、皆さまをお迎えする予定です。

●『恩田家文書目録(3・完)』を刊行

3月、当館に寄託されている古文書の目録である『恩田家文書目録(3・完)』を刊行しました。令和3年3月の『恩田家文書目録(1)』、令和5年3月の『恩田家文書目録(2)』に続く3冊目の刊行であり、恩田家文書目録はこれをもって完結となります。

折角ですので、『恩田家文書目録』から恩田家文書を振り返ってみましょう。恩田家文書は全部で1万点以上を数え、(1)～(3)それぞれの目録に約3,500～3,900点ずつ収録されています。収録されている古文書のうち、年代がはっきりしているものでは、古いものだと江戸時代中頃、新しいものだと大正時代のものがありました。内容は、年貢・諸税に関するもの、万上白みりんの領収書(『恩田家文書目録(3・完)』扉参照)や仕切書など金融に関するもの、薬師院や熊野神社への奉納金など宗教に関するものが多く、これらだけで全体の約半数を占めます。逆に、鷹場に関するものは最も数が少なく、全体の0.2%ほどしかありませんでした。

『恩田家文書目録』は博物館で有償頒布しているほか、市内図書館でもご覧いただけます。いきなり目録を読み解くのは難解かもしれませんが、皆様が少しでも古文書に興味を持つきっかけとなれば幸いです。

(上條静香)

展示案内

● 令和7年度特集展示

★会期：7月6日(日)まで

今年はアジア・太平洋戦争の終結から80年、つくばエクスプレス(TX)開通から20年にあたります。この特集展示では、第Ⅰ部で旧制中学校を中退して少年飛行兵を志した一人の青年の歩みを、第Ⅱ部でつくばエクスプレスの開通と流山市域の変化を紹介します。(伊藤智比古)

会期中休館日 月曜日 会場 第二展示室 観覧料 無料



第Ⅰ部 ある10代の戦争体験
—学校を中退して海軍へ—



第Ⅱ部 TX開通—流山を変えた7300日—

● 常設展示「戦中・戦後の流山」リニューアル

1月、「戦中・戦後の流山」コーナーをリニューアルしました。前半にあたる「戦争の時代の生活」ではアジア・太平洋戦争中の生活に関わる資料として、衣料切符や千人針などのほか、流鉄の空襲被害や流山^{りょうまつしやう}糧秣廠に関する資料を展示し、後半にあたる「戦後の合併とベッドタウン化」では流山市域の合併と宅地開発に関する資料を展示しています。



ぜひ見ていただきたいのは江戸川町に関する資料です。概ね現在の流山市の形ができたのは昭和26（1951）年4月、流山町・新川村・八木村が合併して「江戸川町」が誕生した時のことです。翌年1月には流山町と名前が変わるため、江戸川町であった期間はわずか9か月ということになります。展示では合併記念の^{さかづき}盃や湯呑を紹介しています。今日ではこのような記念品は稀ですが、当時の合併を祝う気運を見て取ることができます。また、江戸川町長の公印も展示しました。角の丸くなった印章は、わずか9か月のあいだにも幾度となく使われたことをうかがわせます。

（伊藤智比古）

● 常設展示「江戸時代の流山」リニューアル

2月には「江戸幕府と流山」コーナーをリニューアルしました。コーナー名も「江戸時代の流山」と新たにし、村・河川・小金牧を展示の柱としています。その内容を簡単にご紹介します。

①村をテーマにした「書き残された村の姿」……現在の流山おおたかの森駅近くを描いた村絵図や、石高・人口といった村の詳細をまとめた帳面など、村の様子がわかる絵図・古文書を中心に展示しています。

②河川をテーマにした「川の恵みと災い」……江戸川を利用した舟運で運搬されていたものとその運賃を書き上げた古文書や、坂川の治水に尽力した鱸ヶ崎村の渡辺庄左衛門を称える東福寺の石碑などを紹介しています。

③小金牧をテーマにした「牧のかたわらに暮らす」……小金牧から払い下げられた馬の領収書を初公開。御鹿狩に使用された村小旗など、古文書だけでなくモノ資料も多く展示しています。

展示している古文書の一部は定期的に展示替えをする予定です。江戸時代の流山はどんな場所だったのでしょうか。ぜひ足を運んでお確かめください。

（上條静香）



● 国登録有形文化財「秋元家住宅土蔵」の保存修復工事

国登録有形文化財「秋元家住宅土蔵」は、令和7年3月に外観部の修復工事が完了しました。今回は修復工事の内容について紹介します。

解体作業では、屋根や土壁の状態が予想以上に悪く、瓦や土壁を全て外すことになったため、最終的には屋根の野地板と柱だけの状態になってしまいました。



新しい梁に入れ替える

梁の一部は雨や白アリの影響で腐っており、新しい梁に交換しました。古い建造物の多くは、釘を使わず、柱や梁を組み合わせてできています。そのため、新しい梁を入れる際には、野地板や梁の一部を外し、柱の間隔を広げ、はめ込むという大作業が行われました。



土葺から板材に変更

屋根は野地板の劣化した部分を新しい板に取り換え、瓦下の土葺は板材に変更しました。

瓦は8割を新しい瓦と取り替えることになりましたが、古い瓦とは形が異なるため、古い瓦と同じ形に合わせる加工をして、修復しました。また、見栄えを考え、古い瓦を建物の南北端に、新しい瓦を中央部に配置しました。あわせて、北側の鬼瓦・花

ぶか
深も新しく作り直しました。

壁の修復では、期間、費用、耐震の問題を検討した結果、木材と土壁を併用した方法を採用しました。これにより土壁の厚さは薄くなりましたが、修復作業は専門の職人の手で慎重に行われ、白い漆喰が輝く土蔵に修復されました。

(北澤滋)



職人による土壁塗り



復元された鬼瓦と花深



修復完了した土蔵

ながれやま博物館だより 第7号

発行日 令和7年6月1日

編集・発行 流山市立博物館

〒270-0176 流山市加一丁目1225-6

お問い合わせ ☎04-7159-3434

ホームページ <https://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/1001780/1001785/index.html>



ホームページ



Facebook



X(旧 Twitter)



Instagram